

3. 2024 年度事業計画詳細

(1) 大工道具及び建築関連資料の収集及び保管

① 大工道具など実物資料の収集

a) 実物資料の収集

保存に資する国内および海外の実物資料を収集する（寄贈、購入情報にもとづき随時実施）。また本年度は企画展「日光の金工と彩色」展の開催に関連して、「日光東照宮陽明門組物模型（実物大）」の製作を行う。

② 視聴覚資料の収集と保管

a) ビデオライブラリーの英語字幕化

ビデオライブラリー映像資料の内、必要度と優先度の高いものを選別し、英語ナレーション版または字幕版を製作する。2018 年度より開始した計画の継続実施分。

b) 映像作品「日光」（短編版）編集・製作

企画展「日光の金工と彩色」に関連し、他機関製作の既存映像より、日光の「金工」「彩色」「漆」「金箔製造」について短編版を編集・製作する。

c) 映像作品「彫刻刀」製作

彫刻刀鍛冶「左小信」の三角鑿、箱鑿の製作工程（特に型の使い方）を記録する。

d) VHS テープ資料の DVD 化

2023 年度より、VHS テープ資料の DVD 化（デジタル化）を進めている。今年度は約 200 点について DVD 化を進める。これにより所蔵 VHS テープ資料の大半がデジタル化される。

③ 分類整理・保管

a) 収蔵庫の維持管理・整備

害虫燻蒸、温湿度管理、資料油拭き、収納器材購入等の定常管理業務を実施する。

b) 資料データベースの整備

資料管理業務の効率化を目的に、道具・文献・映像・写真・図書・論文資料のデジタル化・データベース化を継続的に推進中。新規収集資料の登録、写真撮影、配架作業のほか、登録番号見直しに伴うエナメル修正作業を実施する（昨年度より継続）。

(2) 大工道具及び建築関連資料等の展示及び公開

① 常設展示

a) 常設展示の保守管理

器具破損対応等の保守管理、道具の油拭きならびに借用品の賃借契約更新を行う（定常業務）。

b) 常設展示の部分改装

開館 40 周年記念事業の一環として、展示解説（パネル、キャプションプレート、オーディオガイド）の多言語対応（英中韓+α）を進める他、照明器具や展示機材の更新、図書・ビデオライブラリーの改装などを実施する。

c) 関連印刷物の発行

来館者用のリーフレット、企画展、ワークショップ等のイベントチラシ、企画展図録の印刷発行と増版を含む適正在庫量を確保する。また開館 40 周年記念事業の一環として、

海外からの来館者サービスとして『常設展示解説』の英語化（翻訳）を行う。

② 企画展の準備と実施

40周年記念事業の一環として、本年度から来年度にかけては、「世界における当館のブランド価値向上」を目指して、海外巡回展、ユネスコ無形文化遺産関連企画展を開催する

a) 海外特別展（パリ）「L'art des charpentiers japonais」

フランス・パリ日本文化会館にて日本の大工技術と大工道具を紹介する展覧会を開催する。2023年度より継続。

会場：パリ日本文化会館

会期：2023年10月18日～2024年1月27日

b) 企画展「台打ち」（仮題）

明治から昭和にかけて、東京を中心に、専門職として活躍した鉋台打ち職人の技を紹介する展覧会を開催する。

会場：当館1F多目的ホール

会期：3月2日～5月6日

c) 企画展「日光の金工と彩色」

「伝統建築工匠の技」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことを記念して、17の選定保存技術のうち、「金工」「彩色」「漆生産」「金箔製造」の技術を、日光の社寺の修理事業を通して紹介する展覧会を伝統建築工匠の会（無形文化遺産統括団体）とともに開催する。なお本展は2025年あるいは26年に東京への巡回を検討している。

会場：当館1F多目的ホール

会期：9月下旬～12月中旬（予定）

d) 「一脚展 2023」

兵庫県で活動する家具作家が過去一年以内に製作した新作の椅子を一脚ずつ展示する企画展を開催する。

会場：当館1F多目的ホール

会期：9月中旬～9月下旬（予定）

e) 海外巡回展 JapanHouse 「KIGUMI」

外務省が主催する JAPAN HOUSE 巡回企画展第6期を実施する。当館としては開館40周年記念事業の一環とすることで承認されている。目下、実施時期の調整中であるが、2024年9月～2025年1月にロサンゼルス、2025年4～7月にロンドン、2025年10月～2026年3月にサンパウロとなる見込みである。

会場：JAPAN HOUSE ロンドン、JAPAN HOUSE ロサンゼルス、JAPAN HOUSE サンパウロ

会期：2024年9月～2026年3月の見込み

f) 「ブッダ・スクール開校20周年写真展示」

NPO法人AAF（Asian Architecture Friendship）が支援するネパール・フィリムのブッダ・スクールの開校20周年を記念して東京 Gallery A4 と当館で写真展示を行う。

会場：当館1F多目的ホール

会期：1月10日～1月28日（東京：2023年12月1日～14日）

g) 企画展共通備品の整備

企画展開催に必要な備品（映像機器、サインスタンド等）を適宜購入する。

③ 企画展の中期的準備

a) 「(伝統建築工匠の技：畳あるいは建具)」(仮題)

「伝統建築工匠の技」17の選定保存技術のうち、「畳製作」「建具製作」のいずれかをとり上げ、企画展を開催する(当館、2025年春)。本年度は関連調査を実施した上で、企画案を作成する。

b) 「植物×匠」展(仮題)

「伝統建築工匠の技」14の選定保存技術のうち、「桧皮葺・柿葺・茅葺」「茅採取」などを、植物学と建築学の両方の視点から紹介する展覧会を企画している。本展は2025年夏に東京(国立科学博物館)で開催した後、秋に当館にて開催予定。本年度は関連調査を実施した上で、企画案を作成する。

(3) 大工道具及び建築関連資料等に関する調査研究及び研究誌の発行

① 建築技術と道具に関する研究

a) 韓国

日本と深い関わりをもつ中国・韓国の木造建築と道具に関する調査研究を実施している。本年度は朝鮮時代の最後の宮大工と言われた裴喜漢氏の口述書『朝鮮木手(モックス)・裴喜漢の生涯、この朝鮮の鋸も錆びてしまった』の和訳を完了する。

b) ヨーロッパ

ヨーロッパの大工道具と建築技術に関する継続的研究を引き続き行う。本年度は特にフランスの規矩術 *l'art de trait* と巡歴修行システムに関する調査を中心に、企画展実施に向けた展示品等に関する調査を行う。

c) 大工技術書

大工技術書「鎌倉造営名目」、「黒田宗信伝来文書」、「萬木碎」に関する読解研究を継続的に実施中。本年度は「鎌倉造営名目」する論考を1点学会誌に投稿予定。

d) 建築部材の加工技術(部材加工痕)

古代～近世前半の部材加工技術の実態を明らかにすべく建築部材の加工痕研究を継続中。昨年度継続事業として大徳寺発見鑿の復元・使用実験について紀要に成果をまとめる。また、正倉院事務所の依頼により正倉院宝物の接手について第一回調査を実施予定。

e) 大工・鍛冶への聞き取り調査

名工と讃えられる大工や鍛冶を対象に、既往研究調査ならびに本人・関係者への聞き取り調査を、中期的課題として継続的に実施している。本年は昨年を引き続き数奇屋大工に関する聞き取り調査を実施する。

f) 近世民家の住まい方

近世の民家における住まい方の歴史あるいは構法・加工技術の歴史について調査研究を進める。今年度は資料調査など各種準備を行う。

g) 左官への聞き取り調査

道具の名称と使用方法を中心に、左官職人と鍔鍛冶への聞き取り調査を実施している。本年は昨年からの継続として、久住章氏の磨き手法について鍔の形状と壁仕様の変遷をまとめる。

h) 情報収集活動ならびに研究者ネットワークの形成

道具と建築に関する情報収集を行う。現地調査、学会参加、博物館視察、出版物収集などを随時実施。また必要に応じて館外学識者との勉強会を適宜開催し、研究ネットワークの構築と館職員の知識向上を図る。

② 出版活動（研究成果の公開）

- a) 研究紀要 No. 35 の発行および No. 36 の準備
調査研究成果の公開を目的として、研究紀要 No. 35 を 3 月下旬に発行する。また並行してオンライン刊行を進め、印刷物の配布を極力減らす。本年後半には No. 36 発行に向けて企画ならびに原稿執筆を進める。

（4）教育、学術及び文化に関する普及及び支援活動

① 諸施設への協力

- a) 諸施設への協力
各種学校、博物館、研究機関、職人団体等への情報提供および資料貸出、実習生の受け入れ、館外での受託講演、出張授業、研究協力などを行う（定常）。

② 教育・文化普及活動の実施

- a) 「技と心」セミナーの開催
館職員および館外学識者を講師に、大工道具や建築技術に関するセミナーを年 4 回開催する。このうち、7 月は 40 周年記念講演会として大型のイベントを開催予定である。
- b) ワークショップの開催
コロナ前の水準に戻して実施する。「ちょこっと木工」（工作ワークショップ、水曜、土日祝日）、大工による鉋削り体験（月 1 回）、大工道具にチャレンジ（月 1 回）、春休み・夏休み子ども体験教室等。コロナ前に実施していた特別茶室公開時の呈茶イベントも再開する。
- c) 木工室の管理運営
木工室を安全に管理運営する。イベント開催に必要な道具、機械、消耗品等を適宜購入する。

③ ボランティア活動の管理・運営

- a) 運営管理
大工道具に関心ある希望者をボランティアスタッフとして受け入れ、(1)館蔵品の手入れや整理等の補助、(2)常設展示の展示解説、(3)館内プログラムの運営およびその補助、(4)アウトリーチ活動補助等に携わってもらっている。これら活動の管理運営ならびに、スキルアップのための研修会・見学会等を随時実施する。
- b) 茶道ボランティア運営管理
館内の茶道イベントに対する補助を目的として竹中工務店茶道部にボランティアスタッフとして参加してもらっている。これに付随する稽古費の支払い、消耗品の購入等の運営管理行う。

（5）竹中大工道具館の管理・運営（管理業務）

① 管理・運営一般

- a) 財務会計処理業務一般
本館活動のための資金運用を含めた財務会計処理業務を適正且つ着実に実施する。
- b) 入館受付、団体受付、展示説明他
団体の来館見学受け入れ、予約受付方法の改善、解説希望グループ向け対応者の調整を着実にこなす。個人の来館者、外国人来館者に対しても解説ボランティア対応や音声ガイド活用等により満足される対応を行う。また、家族来館や学校団体として来

館の子どもたちが楽しみながら学べるワークシートの作成し、適宜改善する。人気の「ちょこっと木工」受付業務をスムーズに行い、インバウンド対応への改善も行う。

② 広報活動

a) 広報一般

各種広報媒体へ企画展やイベント活動等を含めた情報提供を積極的に展開し、広報後の礼状送付などアフターケアを含め継続して報道してもらえるよう努める。博物館施設等のイベント案内に特化した SNS の利用、新規開拓に努める。

b) 広報印刷物の発行と送付

当館の最新情報およびイベント案内を掲載した広報誌「竹中大工道具館 NEWS」（年 2 回発行、作成部数 6 月：3,000 部、12 月：3,000 部）と「イベントカレンダー」（年 2 回発行、作成部数 6 月：3,000 部、12 月：3,000 部）を発行し、関連施設、来館者などに配布ならびに発送する。

館 NEWS についてはデザインリニューアルを行う。

c) ウェブサイト・メールマガジンの維持・管理

広報活動の一環として、一般向けに IT を利用した、ウェブサイトの定期的更新および企画用特設サイトの構築、メールマガジンの定期発行（隔月年 4 回）、YouTube を含めた SNS 投稿を実施する。また海外対応のため、英語対応を充実させる。

ウェブサイトについては大幅なリニューアルを行う。

③ ミュージアムショップの運営

来場者サービスの一環として「木」「道具」をコンセプトにミュージアムショップを運営している。購入者の嗜好を検討しながら、当館のイメージ向上につながる新商品の開発を生産者と連携しながら進めていく。

④ 茶室の維持・管理

敷地内の茶室を適切に維持管理し、春・秋に特別公開を実施する。

⑤ 休憩室の維持・管理

定期的なイス、テーブル等什器の清掃・消毒に努めるとともに、手指の消毒できる体制を整備し休憩室を適切に維持管理する。来館者が庭園を見ながらほっとひと息つける心地よい休憩場所を提供する。

⑥ 館の情報インフラの強化・管理

運営に必要な作業環境および情報インフラの更なる充実とセキュリティ強化を図るとともに、特に情報発信の手段としてメインとなるホームページの充実を図りユーザーの利便性を向上する。

⑦ 理事会・評議員会、役員見学会の開催

2～3 月に決算の定時理事会及び定時評議員会、11 月に次年度の事業計画・予算の定時理事会及び役員見学会（役員全員）を開催する。また、必要に応じて臨時理事会、臨時評議員会を開催する。

⑧ 財団法人事業報告会への参画

（公財）竹中育英会、（公財）ギャラリーエークウッドと共に出席し、本館の事業の進捗などについて報告、及び運営上の情報交換さらには企画展の共同開催についても情報交換を行う。

⑨ 運営管理の改善と効率化

館の運営に係る管理費（固定経費）をより精度よく把握するとともに、事業費（変動費）の予算管理の充実を図ると共に効率よい運営を推進する。